

非営利法人ニュース

2017年
9月号
Vol. 56



発行 公益総研 非営利法人総合研究所
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814
編集協力 (特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

★★ お勧めセミナー情報 ★★

【1】NPOが得か？社団が得か？法人設立セミナー

*どの法人格が向いているのか、メリットとデメリット・税制の違いなどを説明

- 講師 福島 達也
(田園調布学園大学講師・(特非)国際ボランティア事業団 理事長)
- 日時 平成29年11月15日(水)
午後2:00~4:00(受付1:45~)
- 会場 東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル1階会議室
(新橋駅烏森口より徒歩8分・御成門駅より徒歩5分)
- 定員 先着8名まで 徹底指導(最少催行人数3名)
- 受講料 3,000円(1名分・税・テキスト代含む) *事前振込



◎情報満載！今月のもくじ◎

セミナー&奨学金情報	1
遺贈の窓口情報	1
非営利法人関連情報	2,3
CEOコラム	4
編集後記	4

★★ 返済のない奨学金のお知らせ ★★

一度進んだ道を軌道修正して再チャレンジしたいが経済的理由により困難な学生向け

『逸男記念 再チャレンジ奨学金！』

- 応募資格・・・医療・福祉・看護に関係する大学又は専門学校に進学
- 募集期間：2017年10月末日まで
- 採用人数：2018年度の奨学生は3名程度を採用します。
- 給付等：大学(専門学校)在学中 年額60万円(合計240万迄)を支給します。返済はありません。

※詳しくは、財団ホームページ(<http://kosuikyo.com/>)をご覧ください、申込書等はHPよりダウンロードし、必要事項を記入して提出してください。

★★ 遺贈の窓口からのお知らせ★★

●相続する人がいない、または相続人が放棄したお金は、すべて国に没収となります。その額、毎年400億円を超えています。しかし、遺産を社会的に有意義な事業に使ってほしい、という気持ちを遺言書に残しておく、法律にもとづく法定相続に関係なく、ご自分の意思を生かすことができます。この遺言による財産寄付を「遺贈」といいます。公益財団法人公益推進協会では、「自分の名前をつけた基金」を作る遺贈によるご寄付を承っております。死後、ご自分の財産を自分の名前の基金に変え、自分の考える公益的な社会貢献活動に役立ててほしいとお考えでしたら、ぜひ、遺言書を作成し、受取先を「公益財団法人公益推進協会」とご指定ください。

☆セミナー&奨学金申込方法☆

- 【1】NPOが得か？社団が得か？法人設立セミナー
→特定非営利活動法人 国際ボランティア事業団
TEL 03-5405-1813
FAX 03-5405-1814
メール npoinfo@iva.jp

■必要事項

- ①参加日
- ②参加者氏名
- ③団体名
- ④案内送付先郵便番号、住所
- ⑤電話
- ⑥ファックス
- ⑦メールアドレス

【2】奨学金

応募用紙等郵送先
〒105-0004
東京都港区新橋6-7-9
新橋アイランドビル2階
(公財)公益推進協会
逸男記念 再チャレンジ奨学金
担当 高野宛 以上

☆遺贈の窓口からのお知らせ

公益財団法人公益推進協会
TEL 03-5425-4201
FAX 03-5405-1814
メール info@kosuikyo.com
HP <http://kosuikyo.com>

「お金を持っている国ほど遅れている？」

公益総研株式会社 主席研究員兼CEO
公益財団法人公益推進協会 代表理事
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也



どう考えても世界から大きく日本が遅れているのは、「お金」ではない？お金がない？いや違う。お金を使っていることだ！
使えるお金があるなら後進国ではないだろうって？

いやそういう意味ではなく、現金のやり取りのことである。「決済手段」だ。

あなたはコンビニやスーパーなどで買い物をするときに、何で支払いをしているだろうか？ほとんどの人は、買い物する際には財布を取り出し現金で支払っているだろう。最近ではスマホや専用のカードで支払うことができる電子マネーで決済している人も少しずつ増えてはいるが、まだまだ少数派でしかない。

調べてみると、近年では日本でもSuicaやEdyといった電子マネーが急速に普及しつつあるが、全体の3%程度でしかなく圧倒的に現金決済が占めているのだ。さすがに、電車やバスに乗車する際に電子マネー決済を使用するのはかなり浸透してきたように思うが、買い物はだめだ。日本で生活していると買い物の支払いは現金払いというのが常識といっても過言ではない。

しかし、これは世界的に最も後進国であることと等しいのだ。アフリカの田舎でも現金だ。

日本はお金を大切にす現金主義という独特な性質があるが、世界の先進国のほとんどでは、お金が存在しない「キャッシュレス化」が進行しているのだ。

では海外ではどの程度、クレジットカード決済が利用されているのか調べてみると、韓国では73%、カナダは68%、オーストラリアは63%、中国は55%、アメリカは41%、そしてまだ原始時代を歩んでいる日本は17%なのだ。

つまり、日本はクレジットカード決済の利用率は世界でも最低水準なのである。ではなぜ日本ではショッピングの際、現金で支払っているのかというと、実は小規模の飲食店などクレジットカード決済ができない店がまだ存在しているからなのだ。

つまり日本でクレジットカードが普及しない根源というのはサービスや商品を提供するお店側が決済端末を導入しないからなのである。つまりお店がクレジットカード決済や電子マネー決済を導入することによってけっこうな諸経費を負担しなければならないので、これがクレジットカード普及の弊害となっているのだ。

さらに、事前にチャージする電子マネーに対し、クレジットカードは利用した代金が後払いとなるため、何となく借金のような感じがするので、ネガティブな印象があり、それも普及しない理由だろう。借金はだらしがなく、自己破産に繋がる危険な存在と考える方は少なくないだろう。この日本人の意識が影響して、クレジットカードを持っていたも、一生懸命レジの前で小銭を数える主婦は減らないのかもしれない・・・。

最近では事前にチャージするプリペイド式の電子マネーが浸透しつつあるが、これは利便性の高さからだけではなく、借金ではなく「前払い方式」というのも普及している理由なのだろう。なぜなら、電子マネーはチャージした金額しか使用することはできないからである。

では海外ではキャッシュレス経済はどの程度進行しているのかご存じだろうか。

現在、世界でもっともキャッシュレス化が進む先進国といえば北欧となっており、スウェーデン、ノルウェー、デンマークといった国が現金使用比率5%未満と際立っている。特にスウェーデンでは現金の使用比率が2%となっており、日本とは大きく異なり現金お断りの店舗も少なくない。100人のお客さんのうち2人しか現金で支払わないのだ。日本と比べると信じられない数字だ。

それだけではなく、現金ではバスや鉄道を利用することはできず、現金を置かない銀行もあるほどなのだ。

まだまだある。エストニアでは国民のデータベースがあり銀行口座の直結した決済用カードで支払いができ、銀行の入出金まですべて国家が管理しているのだ。そのため税金の徴収も自動計算され銀行口座からの引き落としとなるため、納税申告もなければごまかすこともできない。そのかわり、ここまでキャッシュレス化が浸透したエストニアでは税理士や会計士という税金関連の職業はすでに消滅してしまったらしい・・・（笑）

ではなぜ、現金を使っている日本が後進国で、使わないキャッシュレスの国が先進国か説明しよう。

キャッシュレス経済が進むことによって得られるメリットは、まずどのお店でもお金を数えるという手間が省けることだろう。レジの前でまごまごしている人がとても多いので、その時間をトータルすれば、膨大な経済損失になることがわかるだろう。

つまり1日に何万回も誰かがお金を数えており、その時間と労力は膨大なものでありキャッシュレス化することによってそれらがすべて省力化できるのである。したがって企業の経費や人件費の削減につながり大きな経済効果を生むことになるのだ。

さらには「お金」というモノは多くの犯罪に関わっていることはいままでもない。銀行やコンビニにお金が置いてなければ強盗に入られることもないだろう。そしてお金がなければ恐喝もなくなり、お財布を落としても大きな被害にもならない。

どうだろう。このようにお金がなくなることによって得ることができるメリットは膨大なものであることがわかるだろう。

現金さえ無くなれば、経済効率がよくなり、景気が良くなり、どんなに人口が減っても怖くないはずだ。

現金が使えるレジを減らしたり、現金を扱う店舗や会社の税金をうんと高くするなど、政府が罰則を徹底すれば、日本人のすべてが電子マネーを持つようになり、買い物で長蛇の列ができることもなくなるだろう。

私は2、3年前から、買い物で現金を使うことはまずなくなった。携帯電話に組み込んだ電子マネーで日常生活のほとんどがスマートに済んでいるのだ。電子マネーが使えないお店では買い物をしてないし、電子マネーが使えないタクシーも乗らない。

でも携帯電話を落としたらどうかって？うーん、確かにそれは怖い。となると、肌や骨にチップを埋め込むしかないか・・・。

ちょっと痛そうだが、そうなる日も近いのかもしれない・・・。

編集後記

近年テレビを観ない人が増えているようですが、自分も今の家に引っ越してからパソコンでテレビを映すようにしていたら次第に観なくなっていき、最後には全く観ない生活に慣れてしまいました。9月にまた引っ越しを控えているので、今度はどうしようかと思っていますところですよ。

(とら)